

## 第45回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	令和8年1月16日（金） 県庁4階大会議室		
委員  (委員数：5) (出席数：5)	委員長	唐渡 広志	(富山大学経済学部教授)
	委員	内田 慎哉	(富山県立大学工学部准教授)
	委員	小股 清香	(弁護士)
	委員	佐藤 綾子	(富山国際大学現代社会学部教授)
	委員	下坂 久美子	(税理士)
次 第	1 開会 2 入札・契約手続の運用状況の報告 ① 富山県の入札・契約制度について ② 令和7年度上半期の入札・契約方式別発注工事の状況について ③ 令和7年度上半期の一位不動入札及び落札率100%入札について 令和7年度上半期の予定価格及び入札方式別落札率について 令和7年度上半期の一者入札について 令和7年度上半期の総合評価方式の試行結果について ④ 令和7年度上半期の低入札価格調査制度及び最低制限価格制度対象工事の状況について ⑤ 令和7年度上半期の指名停止の運用状況について 3 審議工事の抽出結果の報告 4 抽出事案の審議 5 審議結果の報告 6 閉会		
審議対象期間	令和7年度上半期（同時期に請負契約を締結した工事）		
抽出事案	10件（審議対象工事総件数：722件）		
一般競争入札	3億円以上	1件	(事案1) 富山県富山児童相談所等新築工事
	2億円以上	1件	(事案2) 熊野川ダム河川改修ダム管理用制御処理設備改良工事
指名競争入札	2千万円以上	4件	(事案3) 主要地方道新湊庄川線道路橋りょう改築雄神橋再塗装その1工事
			(事案4) 主要地方道富山八尾線県単独道路改良路肩拡幅(広田工区)工事
			(事案5) 地すべり対策 氷見北部地区 法面保護工改修工事
			(事案6) ほ場整備 東中野新地区 第2の1工区ほ場整備工事
随意契約	1件	3件	(事案7) 6年災第315号一般県道平阿尾線橋梁災害復旧(稲泉橋)支承取替工事
			(事案8) 伏木富山港(新湊地区)港湾災害復旧臨港道路西埋立1号線道路復旧工事
			(事案9) ため池整備 大沢東地区 残土置場整備工事
委員からの意見及び質問並びに当該質問に対する回答	意見・質問	回 答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会としての意見	令和7年度上半期における建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われている。		

別 紙

意見・質問	回 答
<p>○事案 1 は、技術提案の評価において、提案なしとして不可とされたものがある。このような提案がされた原因は確認しているのか。</p> <p>○事案 1 は、入札参加者間で評価値の乖離が大きく、これに関連する建築付帯工事の電気・空調・給排水衛生設備工事はすべて一者入札である。競争入札が機能するような工夫をお願いしたい。</p>	<p>個別の案件については確認していない。関係団体へ技術提案の取扱いについて周知している。</p> <p>承知した。</p>
<p>○事案 3 は、J0対象工事だがJ0とは何か。また、なぜJ0としたのか。</p> <p>○事案 3 に関して、一般的には入札参加者を確保するのが困難だと聞いているが、その中で入札参加者の地域により評価値に差をつけているのはなぜか。</p>	<p>事案 3 の場合は、その 1 工事及びその 2 工事を J0 対象工事として設定し、その 1 工事から順に落札決定を行い、落札者はその 2 工事の入札から除外する制度である。</p> <p>工期が非出水期に限定されることから、当期間内に完成する発注ロットとするため、J0 対象工事として分割発注を行った。</p> <p>災害時には地域に精通した地元企業にご対応いただくなど、地域企業を育成する必要がある。このため、営業所の所在地で評価値に差をつけている。</p>
<p>○事案 4 は、一者入札かつ落札率 100%入札である。どのように分析しているのか。</p>	<p>一者入札については、各企業が手持ち工事、配置予定の技術者及び今後の別工事の発注見込みから総合的に判断したものと推測している。</p> <p>落札率 100%入札については、歩掛及び労務・資材単価を公表していることから各企業が工事内容を十分に検討し積算された結果だと推測している。</p>
<p>○事案 6 に関して、工事範囲の分割方法により、入札参加資格の等級等も変わるが、どのように工事範囲の判断をしているのか。</p> <p>○事案 6 に関して、ほ場整備工事は一者入札が多い傾向にある。原因はなぜか。</p>	<p>ほ場整備工事は、農家所得に影響があることから、一年間の施工能力が決まっている。農家の状況を勘案して年間の工事面積を設定し、工事範囲を分割している。</p> <p>ほ場整備は、天候不良時の施工は翌年度の営農に影響があるため、天候が良いときに施工する必要がある。一般的な土木工事に比べ、このような工期的な制約があることが原因だと考えられる。</p>